



株式会社タケエイ

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目1番1号 ブルーフロント芝浦 タワーS 26階
TEL. 03-6361-6830 (代表) FAX. 03-6361-6835

<https://www.takeei.co.jp/>



環境大臣認定
エコ・ファースト企業



コーポレート
サイト



TREホールディングス株式会社

<https://tre-hd.co.jp/>



Only One Earth

株式会社タケエイ 会社案内

Only One Earthは株式会社タケエイの登録商標です。



株式会社タケエイは、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

2026.9N

環境を守るとは、未来を守ること。

人と環境との豊かな共生のために「資源循環型社会」の創造に貢献します。

建設系廃棄物処理の専門業者としてスタートしたタケエイは、

自然との調和・地域社会との共生を基調とし、多様なニーズに対応するため、

リサイクル技術の確立と施設の充実を推進し、成長してきました。

私たちは、「**WX(Waste Transformation)環境企業**」*として、常に100年先を見据え、

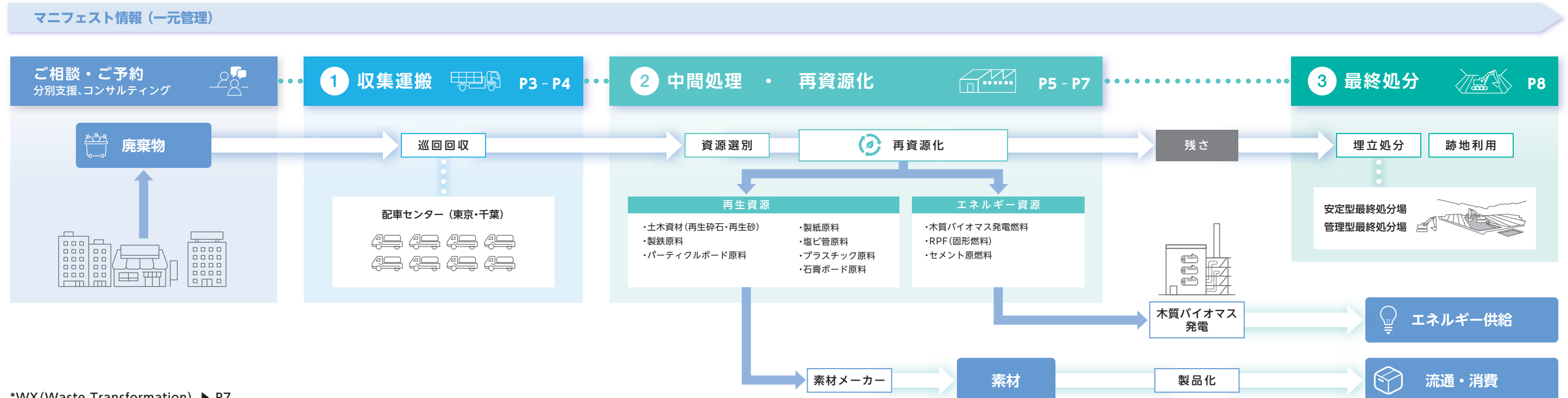
リサイクル事業の深化や再生可能エネルギー事業の推進、

そのための技術開発に挑戦し続けます。

■ 一貫処理体制で資源循環型社会へ

タケエイは「収集運搬→中間処理・再資源化→最終処分」までの一貫処理体制をいち早く確立し、1967年の創業以来、廃棄物処理業界をリードしてきました。

グループ会社や協力企業と幅広く連携しながら、多様な技術で、廃棄物を限りなく資源へと生まれ変わらせます。また、どうしても再資源化が困難な廃棄物や残さについては、厳格な安全管理体制を備える自社の最終処分場等で適正な処理を行っています。



Stage 1 Collection & Transportation

収集・運搬

分別容器のご提案から、
最適な車両の配車まで、
ご要望に合わせた収集運搬が可能

1. 分別容器配置・配車

お客様に廃棄物の保管場所を確保いただき、ランニングボックス（1㎡サイズの回収容器）やコンテナボックスなどの専用容器への分別をご提案します。回収スケジュールや排出状況に応じた最適な車両の配車を行います。また、分別にお悩みのお客様に対するサポートを行っております。

2. 廃棄物の回収・積込作業

タケエイの運搬車両が廃棄物の回収に伺います。回収作業は、周辺状況に配慮しながら安全第一で行い、積み込まれた廃棄物の性状や危険物等を確認の上、マニフェスト（廃棄物管理票）を受領します。

小口巡回回収

タケエイでは、住宅メーカー様向けのサービスとして、住宅現場回収専門車両を開発し、小口巡回回収を行っております。
〈小口巡回回収可能エリア〉 東京都：23区 神奈川県：横浜市、川崎市

3. 中間処理施設への運搬

委託契約に基づき中間処理施設への運搬を行います。運搬中は荷台をシートで覆い、廃棄物の飛散・落下を防止します。安全運転を心がけ、待機時はアイドリングストップを行うなど、環境に配慮しています。

先進的な物流サービスを目指しています。

運行管理システム・ エコドライブ推進プログラムの活用

収集運搬に伴う車両運行管理について、業界内でも先進的にIT化を進め、個々の乗務員の運行記録を的確に把握し、効率的な配車や燃費の向上によるCO₂の削減、運転姿勢評価による安全性の向上を図っています。
また、現場においても、自主整備・点検の徹底による車両の磨耗低減、エコドライブ活動の推進等に取り組み、燃費向上を通じて地球にやさしい運転を心掛けています。

乗務員教育の充実

お客様に最も身近で接する乗務員の業務能力向上を図っています。
例えば、ビジネスマナーや事故防止マニュアルが記載された「タケエイノート（乗務員用）」の配布、各種研修を通じて、接客マナーや業務知識のレベルアップを目指しています。
また、安全運転のため、全乗務員に定期的な適性診断を実施しています。



分別サポート

「何をどう分別したらよいのか分からない・・・」
現場の悩みに、タケエイの分別支援スペシャリストがお応えします。

タケエイでは、分別支援チームによって、
分別にお悩みのお客様に対するサポートを行っております。



実例① 分別講習会

現場での分別意識向上や混合廃棄物の排出抑制、分別強化を目的として定期的に行っています。実際の廃棄物や写真を用いて、各品目の特徴や間違いやすい分別について説明します。



実例② 分別ヤードのご提案

工期によって排出される廃棄物も異なり、分別品目の調整が必要となります。分別支援チームでは、工期に合わせて容器や分別品目の追加、変更をご提案しています。

[現場巡回] [排出量の管理] [ポスター掲示] [一斉清掃のサポート] など

回収サポート

ダンプ、コンテナ車、クレーン車など、
現場のご状況に合わせた車両で回収に伺います。

250台以上の専用車両を駆使し、
現場の規模や状況、廃棄物の内容に合わせて、最適な車両で回収作業を行います。



主な保有車両

- コンテナ車
- ダンプコンテナ車
- パワーゲート車
- クレーン車
- 平ダンプ車
- など



コンテナ・各種容器のメンテナンス

お客様に容器等を常に美しい状態で提供することを目指して、車両のコンテナボックスや分別容器のメンテナンス・修繕・製作等の保全対策を行っています。

Stage 2 Intermediate Treatment

中間処理 再資源化

高精度な選別システムで、
再資源化率を高め、最終処分量を低減

1. 受入検査・計量

受付で、マニフェスト(廃棄物管理票)と廃棄物の性状や危険物等の確認を行った後、トラックスケールで計量します。

2. 手降ろし・粗選別・ライン選別

搬入された廃棄物は、手降ろしエリアおよび粗選別エリアで大まかに選別されます。さらにベルトコンベアによるライン選別では、熟練した作業員がきめ細かな選別作業を行います。この段階の丁寧な精選別作業が、リサイクル率の向上につながります。

3. 機械選別

前工程を経た細かな廃棄物をさらに選別するために、風力や振動式のふるい機械による選別作業を行います。機械選別の工程を経ることで、リサイクル率の向上はもちろん最終処分量の大幅な低減を実現しています。

4. 再資源化機械処理

一連の工程によって品目ごとに精選別された廃棄物は、再生素材やエネルギー資源として素材メーカーや木質バイオマス発電所等へ搬出するために、品質基準に沿って、破碎・圧縮・梱包等の機械処理が行われます。

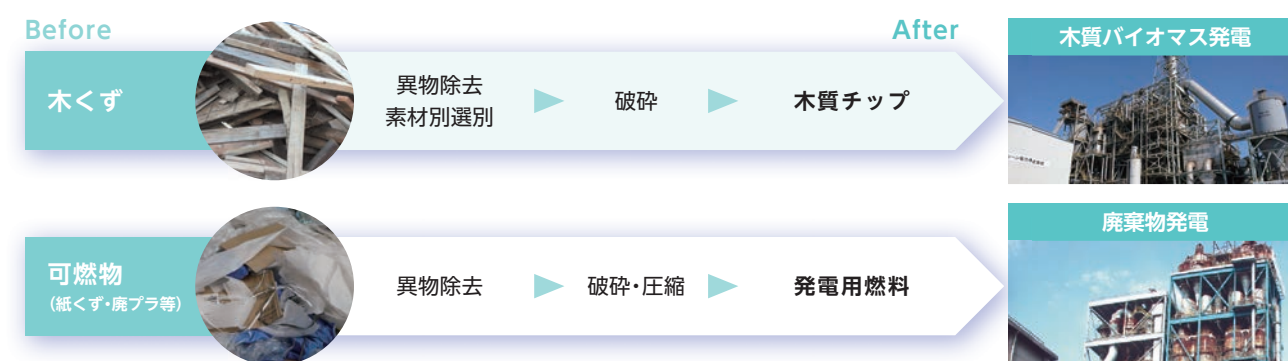
マテリアルリサイクル

リサイクル可能な廃棄物は、それぞれの品質基準に従い、破碎・圧縮等の工程を経て、再生素材として出荷します。
また、廃石膏ボードやがれき類等は、グループ内の専門処理会社でリサイクルしています。



サーマルリカバリー(サーマルリサイクル)

廃棄物を燃焼させ、その際に発生する熱エネルギーを回収し有効活用しています。



WX環境企業への挑戦

WX(Waste Transformation)とは、進化する廃棄物処理技術の活用によって生み出される、様々な業種の企業や自治体、機関と動脈・静脈の枠組みを超えた"共創"の力で、高度循環型社会だけでなく、脱炭素社会も実現させるための取り組みです。私たちタケエイは、TREホールディングスグループの一員として、法令を遵守した廃棄物の適正処理に加え、これまで再資源化できずに埋立処分されていた未利用資源に対して、選別精度を高めて再資源化するための進化に挑戦しています。



WXとは？

固形燃料「RPF」

可燃物

混合廃棄物などに含まれる紙くず、繊維くず、廃プラスチック類などを分選別し、圧縮・成型することで、発電燃料として活用できる固形燃料「RPF」を製造しています。

※RPF: Refuse derived paper and plastics densified fuelの略称。マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料のことで、石炭に比べて同一熱量回収時に約33%のCO₂排出量低減効果がある。
(出典:一般社団法人日本RPF工業会)

廃プラスチック

RPFの有効活用

製造したRPFは、グループ内の木質バイオマス発電所等で燃料として再利用されています。



製鉄副資材「エコ・フォーム」

可燃物

廃棄物処理の過程で発生するダスト(粉じん)を集めて再資源化した製鉄副資材「エコ・フォーム」を製造しています。

中間処理工程で発生するダスト(粉じん)の有効活用

製鉄副資材「エコ・フォーム」は、廃棄物の中間処理工程で飛散したダスト(粉じん)を回収・固化することで製造され、製鋼用転炉の脱炭における消泡材として大手製鉄メーカーで活用されています。

ダスト(粉じん)



再生PVC「エコフレーク」

オフィス等で床材に利用されているタイルカーペットは、表面の繊維層と裏面のポリ塩化ビニル(PVC)層が強固に貼り合わされており、従来その多くは埋立処分されてきました。タケエイでは、専用設備によって廃タイルカーペットの繊維層とPVC層を分離するリサイクル技術を開発し、再資源化を推進しています。

廃タイルカーペット

廃タイルカーペット100%リサイクル

ポリ塩化ビニル(PVC)は再生原料「エコフレーク」として、メーカーが求める高品質な再生原料へとリサイクルしています。繊維層は「エコ・フォーム」の原料として利用することで、100%リサイクルを実現しています。



Stage 3

Final Disposal

最終処分

自社最終処分場で安全・適正な
最終処分を実現

廃棄物の中間処理・リサイクル過程では、どうしても再資源化が困難な残さが発生します。これらの残さは、自社最終処分場等へ安全かつ適正に埋立処分し、安心・安全な一貫処理サービスを提供しています。

安定型最終処分場

成田最終処分場

許可番号: 千葉県 第01240003455号 処分方法: 最終処分 [埋立(安定型)]



大木戸最終処分場

許可番号: 千葉県 第05530003455号 処分方法: 最終処分 [埋立(安定型)]



タケエイグループが誇る廃棄物の一貫処理体制を支える施設として、安定型最終処分場を2カ所運営しています。成田最終処分場は1984年、大木戸最終処分場は1987年に操業を開始し、適切な情報公開や地域住民の皆様との交流に努めながら、地域に根差した事業を展開しています。

跡地利用



タケエイソーラーパーク成田



タケエイエコパークゴルフ大木戸

埋立が完了した最終処分場の跡地を有効に活用しています。成田最終処分場の跡地には、太陽光発電施設「タケエイソーラーパーク成田(第1、第2)」を開設し、発電を行っています。大木戸最終処分場の跡地では、北海道発祥のパークゴルフを楽しめる「タケエイエコパークゴルフ大木戸」を運営し、老若男女問わずプレーをお楽しみいただいています。

管理型最終処分場

〔グループ会社〕

株式会社北陸環境サービス

許可番号: 金沢市 第06040007078号 処分方法: 最終処分 [埋立(管理型)]

〔グループ会社〕

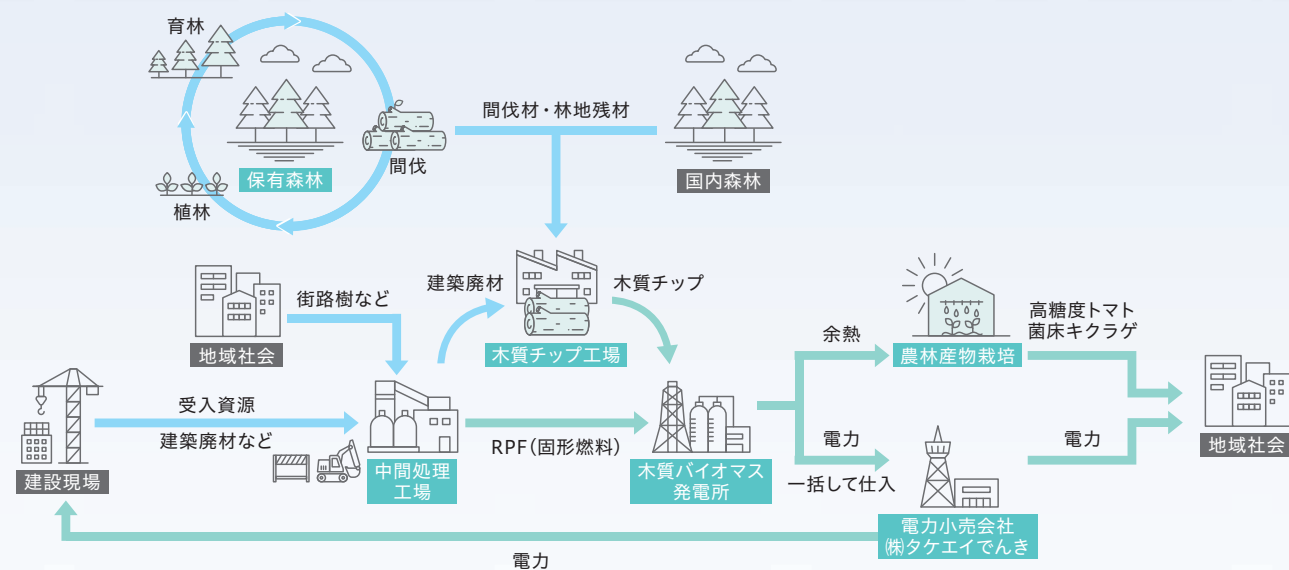
株式会社門前クリーンパーク

許可番号: 石川県 第01734238226号 処分方法: 最終処分 [埋立(管理型)]

再生可能エネルギー事業



タケエイグループは、森林間伐材や建設系産業廃棄物の木くずを燃料とする木質バイオマス発電所を6カ所（東北地方・首都圏）運営しており、発電した電力は地元小中学校などの地域社会へ供給する「電力の地産地消」を推進しています。また、発電の余熱を利用したトマト・キクラゲの栽培や、社有林における森林経営にも取り組んでいます。



森林経営

グループ会社の(株)津軽バイオマスエナジー、(株)タケエイ林業を中心に1,000haを超える山林を保有しています。社有林に対して、地元森林組合と共同で策定した森林経営計画に基づいて、伐採や植林等の森林施業を本格的に進めています。



社有林
(岩手県花巻市)

発電燃料となる間伐材・未利用材等の調達、発電用木質チップの供給、発電及び売電までの一貫体制を構築し、伐採跡地へは少花粉スギの造林を行うなど、地元森林組合と共同で「伐って、使って、植えて、育てる」を合言葉に森林経営を推進しています。

余熱利用



床暖房設備を設置したバス停
(秋田県大仙市)



未来へ、捨てない創造力を。



あらゆる経営資源を互いに活かし、日本の環境産業をリードする企業集団となるべく、2021年10月1日、タケエイはリバーホールディングス株式会社（現リバー株式会社）と共同持株会社TREホールディングス株式会社を設立しました。

タケエイは、「地球の環境保全に貢献する。」を企業理念とするTREホールディングスグループの一員として、TREグループの環境基本方針に基づき、当社独自の方針を定めています。

タケエイ環境方針

当社は、環境事業に携わる「WX 環境企業」として重要な役割を担っていることを認識し、気候変動問題及び環境課題への対応や、環境負荷の低減に向け企業と社会がともに持続可能な未来を実現すべく、以下のとおり環境方針を定めます。

1. 高度循環型社会の実現に貢献します。

当社が保有する廃棄物処理技術の向上を図ります。またグループ間の連携や他社との協業により、廃棄物の再資源化、製品化及び適正処理を促進させます。

2. 脱炭素社会の実現を目指します。

事業活動における省エネルギーの徹底に加えて、自然資源・バイオマス資源等を利用した再生可能エネルギー事業を推進することで、温室効果ガスの排出を抑え、脱炭素社会の実現を目指します。

3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

事業活動における環境汚染の予防に取り組むことで、地域や社会の生活環境保全に努めます。さらに自然環境の保護保全活動にも積極的に取り組み、環境コミュニケーションを通じて人と自然が共生する地域や社会づくりを推進します。

4. 環境活動の推進体制を充実します。

環境法規制等の要求事項を遵守するとともに、役職員自らが環境問題を考えながら継続的に環境活動に取り組みます。

これらを実行、実現するため、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、継続的に改善します。



WX環境企業への挑戦
WX=Waste Transformation

